

## 国連防災世界会議パブリック・フォーラム「災害時における支援調整の仕組みを考える」で パネリストを務めました(2015/3/15)

テーマ：災害ボランティア、支援調整  
場所：仙台市シルバーセンター（仙台市青葉区）

3月15日（日）、仙台市青葉区の仙台市シルバーセンターにおいて、国連防災世界会議のパブリック・フォーラムとして「災害時における支援調整の仕組みを考える ～新たな官民連携・コーディネーション機能構築に向けて～」が開催されました。このフォーラムに当研究所 人間・社会対応部門 防災社会システム研究分野の丸谷浩明 教授がパネリストとして参加し、「日本における支援調整機能検討に求められる視点・論点～官民連携の支援調整機能をどのように構築すべきか～」と題して、内閣府の有識者会議でまとめられた提案の概要について説明を行いました。

本フォーラムは、日本の災害対応の課題を解決するためには産官学民の連携と支援調整が不可欠であり、今後、このJVOADが調整役としての機能を果たすことが必要との認識のもとに開催され、大規模災害時の被災者支援において、災害ボランティア相互、そして災害ボランティアと地方公共団体、自衛隊等との支援活動の連携調整の仕組みづくりを提案し協議することが目的でした。主催者の全国災害NPOセンター（JVOAD）準備会は、災害ボランティア活動を支援している国際協力NGOセンター、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、ジャパン・プラットフォーム、震災がつなぐ全国ネットワーク、チーム中越、東京災害ボランティアネットワーク、日本青年会議所、日本NPOセンターが構成している団体です。

冒頭、主催者より、「日本の災害対応の課題と必要とされる連携・調整機能」について発表が行われ、続いて、NVOAD 米国・全国災害ボランティア組織より、米国における活動の事例紹介、そして、国連世界食糧計画（WFP）の活動に関する事例紹介が行われました。

その後、「日本における調整の仕組みの在り方」をテーマにパネルディスカッションが行われ、コーディネーターは石井布紀子 氏（災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 委員）、パネリストは、栗田暢之 氏（東日本大震災全国ネットワーク JCN 代表世話人）、斎藤 仁 氏（日本経済団体連合会 政治社会本部本部長）、佐甲 学 氏（全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター 所長）及び当研究所の丸谷教授が登壇しました。



講演の様子

文責：丸谷浩明（人間・社会対応研究部門）